

辺野古土砂搬出反対全国協ニュース

発行/辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 <No.1> 2015年8月

沖繩が変われば日本が変わる

…兄弟島・奄美からの呼びかけ…

全国連絡協議会 共同代表 大津 幸夫
(自然と文化を守る奄美会議)

(I) 辺野古問題1か月協議とは

日本の歴史を刻む時！平成27年8月4日(火)午前10時50分、沖縄県庁において菅官房長官と翁長知事は「米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設計画について、今月10日から9月9日までの1か月、移設計画に関する一切に工事を停止し、移設問題について、集中的に協議する事で合意した」と発表した。

この歴史的辺野古移設工事1か月停止の現地沖縄における評価は、次の2点に要約されている。

第一点はオール沖縄で辺野古反対の名護市長・知事・衆議院の3大選挙で勝利した県民の声と普天間米軍基地撤去、辺野古新基地建設反対の全県民・全国的な闘いが、政府を、面会拒否を続けていた強硬姿勢を、停止に追い込むものと高く評価することができる。

第二点目に、しかし、政府は①国会における安保法案の審議が憲法違反で追い込まれ行き詰まり、内閣支持率が最低になったこと。②沖縄辺野古基地問題を一時中断して国民世論の強権的イメージを薄める為に利用しているだけで、「辺野古が唯一の解決策」という政府方針は何ら変わることはないので、協議結果は平行線をたどることが予想される。そこで現地沖縄のこれまで辺野古新基地建設反対を続けてきたオール沖縄の知事を支援する与党県議や県民の声は、1か月間の協議の中で一貫して、これまで通り「辺野古新基地反対を貫き」会談が決裂し政府が作業を強行する場合には第3者委員会の提言に基づく「埋め立て承認の取り消し」を知事が発表して、全県民と全国の連携する反基地団体が手を取り合って、平和な沖縄を勝ち取る日までがんばることを確認し合っている。

(II) 辺野古土砂搬出反対の全国拡大へ

平成27年、5月31日、鹿児島県奄美市において「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」が結成され、琉球新報・沖縄タイムズ・奄美地方紙の南海日日・奄美新聞が6月1日のトップ記事に「辺野古埋め立て一土砂搬出撤回」＝「全国7組織・連絡協設立」の見出し等で大きく全国向けに報道してくれました。また各種全国的テレビ局からも放映され、辺野古埋め立ての土砂が日本全土から広く搬出されることが全国的にも認識されました。

ささやかな奄美の小さな組織から出発し、永年期間多くの経験と実践力をもつ環瀬戸内海会議の活動に学び、全国の砕砂場関係団体に呼びかけ、離島奄美にまで足を運んでくださった皆様方に感謝申し上げます。

この全国の仲間の集いによって、現地奄美の住用村市集落の土砂採石場による自然破壊の実態を明らかにし、北海道大学の向井教授と日本自然保護協会の安部真理子両先生による、市集落沖から海底の調査を実施していただき、3回も続く採石場の災害による「死の海」と化した死滅被害も確認し、報道を通して明らかにすることができました。

私たちは、住民運動の基本は現地の採石場に関する人々の生活とのかかわりの中から運動の



全国連絡協議会設立会議の様子

エネルギーの原点を見出していくものと考えています。現地市集落の採石場から発生する公害に反対し、「生活と自然を守る闘い」が地道に行われ、その採石場から出される「岩ズリ」が沖縄辺野古の軍事基地に運ばれることを反対するという運動発展を展開してきました。

この全国集会に鹿児島県議会議員が5名、沖縄県議会議員が6名も両県から勢揃いしたのは近年初めてのニュースになりました。奄美一沖縄の兄弟島としての絆が結ばれた実感をいたしました。

全国連絡協議会結成以降、辺野古反対の署名活動が全国的に展開され、東京・神奈川・大阪・広島・福岡・熊本・鹿児島と、全国各地から奄美大島の離島の天津幸夫宛てに、毎日のように激励の手紙やNPO活動の通信情報等を同封して多数送付され、沖縄への関心の高さを強く感じています。誠に感謝に絶え

ません。沖縄県議会の方と相談をして、署名簿の政府・国会への提出を実現したいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

琉球新報 2015年6月1日付けより

土砂搬出「撤回を」

全国7組織、連絡協設立

辺野古埋め立て



「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会を設立し、握手をする（左から）天津幸夫代表、向井宏顧問、阿部悦子代表＝31日、鹿児島県奄美市名瀬の奄美ポートタワーホテル

【奄美で金良孝矢】新基地建設に伴う、名護市辺野古の埋め立て用土砂が採取される予定になっている地域の環境団体など7組織で構成する「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会（阿部悦子、天津幸夫代表）が31日、鹿児島県奄美市で設立された。協議会は土砂搬出について「沖縄と日本各地の自然破壊、軍事基地の加担を強制する『二重破壊だ』と批判し、政府に新基地建設と土砂搬出計画の撤回を求める決議文を採択した。」

（26、27面に関連、23面に決議全文）

同協議会の阿部悦子代表（環瀬戸内海会議共同代表）はあいさつで「ふるさとから辺野古に土砂を持つていくことは、私たちが加害者になることだ。搬出元で座り込むなど活動したい」と意気込みを語った。天津幸夫代表（自然と文化を守る奄美会議共同代表）は「運動をさらに広げる出発点となる」と結成の意義を語った。

決議文では「離島、農村は高度成長下で資材供給を担わされ、破壊と公害に苦しんできた」と指摘。

「ようやく乱開発に歯止めがかかり、地域の主体的な振興の取り組みが始まりつ

つある。新たな大量の土砂供出は再びふるさとの荒廃を加速しかねない」と辺野古への土砂搬出を危惧し、計画の撤回を訴えている。環瀬戸内海会議の阿部悦子代表は、名護市辺野古への新基地建設に反対する署名運動に賛同する団体が関東、関西、九州などで22組織に上っていることを報告した。今後、賛同した組織が署名運動を展開することになるが、さらに母体となる賛同組織が広がる可能性もある。

会の構成組織は他に、京都府の「海の生き物を守る会」と兵庫県の「播磨灘を守る会」、福岡県の「門司の環境を考える会」、採石地の土砂崩れに悩まされる鹿児島県奄美市住用町の市集落の環境対策委員会、同県の龍郷町の海岸を守る「手広海岸を守る会」。

琉球新報 2015年6月1日付けに、一面トップで掲載されたほか、沖縄タイムス・奄美群島の奄美新聞・南海日日新聞でも、トップニュースで報じられました。

いくさばぬ とうどうみ 沖縄を肌で感じたいと、「戦場ぬ止み」企画

北九州連絡協議会 事務局長 八記久美子

■砂が水を吸い込むように

5月末に奄美で開かれた、感動的な全国連絡協議会の設立会議に、「門司の環境を考える会」として参加しました。埋め立てに使われる土砂の35%が門司地域からと聞くと、じっとしておられず、6月20日に、11団体で「辺野古埋め立て土砂搬出反対北九州連絡協議会」の結成総会を開きました。

準備期間は20日しかありませんでしたが、100名の参加者に20名程のマスコミの方の参加がありました。みんなで砂が水を吸い込むように、北海道大学名誉教授の向井先生のお話に聞き入り、辺野古や大浦湾の豊かさを知りました。最後は取材に来ていた琉球朝日放送のカメラに向かって、沖縄のみなさんに、「ともに頑張りましょう」と、エールを送りました。

■意識的に全国に署名広げ

現在、私達の活動の中心は署名活動です。この運動が全国に広がるようにと、賛同団体の方が、全国の会議に参加するときには、署名の訴えをしてくれています。

8月はじめに開かれた「日本母親大会」では、呼びかけのビラと署名用紙をセットにしたものを配布しました。教育関係者の全国会議でも、運動の紹介と、署名用紙の配布をしました。いまその署名が、京都府・神戸市・尾道市・和歌山県・東京都・広島県・水俣市・福島市などから届いています。

もちろん、地元でも人の集まる場所に出かけて行って、「故郷の土砂を戦争のために使わないで」「宝のような辺野古の海と大浦湾を、門司の土砂で壊さないで」と署名をお願いして

います。2ヶ月現在の署名数は7024筆です。

■6ヶ所で「戦場ぬ止み」上映会

いま、私達が力を入れているのは、辺野古の海を守る闘いを描いた、映画「戦場ぬ止み」の6回の上映会(10月上旬)と、監督の三上智恵さんの講演会(11月1日)です。

辺野古で毎日斗っている人の思いを肌で感じてほしい、ほとんど知られていない大浦湾の魅力を知ってほしい…。映画と講演会は、多くの人に感動と力を与えてくれると思っています。

この間、役員会では、北九州市環境局にチューターをお願いした外来生物の学習会や、門司の砕石場めぐりも行いました。つねに運動のエネルギーを作りだし、役員が元気であり続けるとともに、体験したこと・感じたことを、ニュースで発信して行こうと思っています。

■当事者として

私達はもともと、「沖縄の平和なくして日本の平和はない」と思っていました。今回の土砂搬出問題で、突然、新基地建設反対の「当事者」になりました。そして、これまでとは比べものにならないエネルギーを、基地問題に注ぐようになりました。土砂搬出予定地は、どこも同じではないでしょうか。

新基地はつくらせない・戦争法もつくらせない・最大の環境破壊である戦争はさせない。子ども達に平和と宝の自然を残すために、この運動を頑張りたいと思っています。



この絵は、沖縄の放送局のニュースで放映されました

予想を超える参加で熊本県連絡協議会結成

天草9条の会 事務局長 生駒研二

■予想を超える参加者が

天草9条の会の呼びかけで、2015年7月20日（月・海の日）熊本県労働会館ホールにて、『辺野古土砂搬出反対』熊本県連絡協議会結成総会を開催した。参加者は予想を大きく超える約100名。平和憲法を守る県民会議に結集する各団体と、天草の平和・人権・環境問題に取り組む団体を中心に、10以上の団体と個人が結集した。

■沖縄と大きく手をつないで

あまくさ九条の会の共同代表の宮崎定邦の開会あいさつのあと、同事務局長の生駒研二が「これまでの経過と天草市御所浦の状況」を報告。阿部悦子『辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会』共同代表からは沖縄・辺野古の状況と全国協議会の取り組みが力強く紹介された。【沖縄と辺野古に連帯する】と題した記念講演では、沖縄出身の板井優弁護士が普天間基地と辺野古新基地の関係を説明した後、辺野古をめぐる現在の問題を指摘し、熊本と沖縄と大きく手をつないでいくことを提起された。

■共同代表も4人選出

続く結成総会では、以下の「設立の思い（決議文）」が満場一致で採択され、具体的に行動していくことが確認された。最後に福島将美（平和憲法を守る熊本県民会議議長）、海秀道（あまくさ九条の会共同代表）、板井 優（弁護士）、神谷杖治（原発ではなく太陽を！天草宝島ネットワーク共同代表）の4名の方が共同代表として選出され、今後の会の運営の中心を担っていただくこととなり、8月5日の共同代表者会議で、現地視察と採石事業者への申し入れを行うことを決定した。

※事務局は

平和憲法を守る熊本県民会議（☎：097-371-6226 メール：kumamoto21rohso@lily.ocn.ne.jp）と、生駒研二（☎：090-8396-5360 メール：ikmks.426@sky.plala.or.jp）が担うこととなった。連絡は事務局まで。

《設立の思い（決議文）》

「戦争のできる国」作りをめざす安倍政権は、沖縄県民の思いを無視し、辺野古のアメリカ軍新基地建設を強行しようとしています。ジュゴンの住む海172haを海面より10m高く埋めるのに使う土砂は2100万㎥ その8割を県外の採石業者から購入するとしています。天草市御所浦からは300万㎥ 100m×100mの土地に300mも積み上げるという途方もない量です。

御所浦は、雲仙天草国立公園の風光明媚な島々からなり、近年は『恐竜の島』として、天草ジオパークの顔ともいえる地域です。採石現場は有名な「白亜紀の壁」の下にあります。化石採取場の岩ズリは、2年に1回この採石現場から運ばれています。また、2004年に手を挙げられた「高レベル放射性廃棄物の処分場」の候補地は採石場の跡地を想定したものだと言われています。

私たちは沖縄の県民の思いを大事にし、1日も早く米軍の基地をなくしてほしいと思っています。美しい辺野古の海を守ってほしいと思っています。山肌を削り、海を汚し、景観を損なっている御所浦をこれ以上傷つけないでほしいと思っています。世界ジオパークをめざす島から、貴重な岩石を沖縄に持って行かないでほしいと思っています。

5月31日、「一粒たりとも故郷の土を戦争に使わせない」とのスローガンに「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」が結成されました。7月13日には沖縄県議会で、県外の土砂の搬入を生物多様性の問題からも阻止する条例が制定されました。さらに7月16日、前知事の埋め立て承認を検証していた第三者委員会は「法の要件を充たしておらず、法律的瑕疵が認められる」とした報告書を翁長知事に提出しました。このように全国で、沖縄で、民主的な反対運動が広がっています。

私たちも、沖縄と辺野古に連帯しその思いを熊本県民に伝えると同時に、「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」と共に、土砂搬出反対の大きなうねりを起こそうではありませんか。多くの熊本県民の皆様の賛同と参加を求めていきましょう。

辺野古沿岸部を埋め立てる土砂の搬出に反対する
連絡協議会の結成総会＝20日午後、熊本市中央区



辺野古埋め立て

御所浦の土砂搬出反対

県内市民団体連絡協を設立

米軍普天間飛行場の（沖縄県宜野湾市）の移設先として、名護市辺野古沿岸部を埋め立てる土砂の採取予定地に天草市の御所浦島が入っている問題で、県内の約10の市民団体は20日、土砂搬出に反対する連絡協議会を設立した。「あまくさ九条

の会」が呼び掛けた。今後、署名活動などに取り組む。

設立総会は熊本市中央区の県労働会館であり、約1000人が参加。共同代表の板井優介（65）が「沖縄県が制定した土砂搬入の規制条例には罰則がない。条例違反を広く訴

え、搬入活動に圧力をかけていこう」と述べた。

参加者から「辺野古の海を汚す加害者になつてはいけない」などの声が出た。その後、「世界ジオパークを目指す島から岩石を沖縄に持っていくな」とする決議を採択した。

政府は沖縄本島や熊本県のほか、香川、山口、長崎、鹿児島各県と北九州市から計2062万立方メートルの土砂を買い取り、埋め立てに使う予定。御所浦島からは300万立方メートルを搬入する。（後藤仁孝）

熊本日日新聞2015年9月21日付け

講演会 「沿岸の生き物の多様性」

～ 小豆島から辺野古へ土砂持ち出しを考える ～

日時：9月20日（日）13：30～15：30

当日午前中、採石場視察を予定、ご希望の方はご連絡下さい

会場：土庄町総合会館（フレトピア会館）1階会議室（土庄本町）

講師：向井 宏さん（海の生き物を守る会代表・北大名誉教授）

参加無料 資料代：500円

主催 小豆島の環境と健康を考える会 環瀬戸内海会議

問合せ 0879-62-1689 富田 086-243-2927 松本 まで

五島列島の環境を考える会(仮称)準備会です

辺野古の海を五島の土で埋めさせない住民の会 歌野 礼

■6万人あまりの離島です

五島列島は辺野古の北に約700kmの東シナ海にあり、五島市と新上五島町を中心に6万人あまりが住む離島です。ご多分に漏れず人口流出に悩み、漁業が低迷すると建設事業に経済を頼り、高レベル放射性廃棄物処分場誘致の動きも数箇所でありました。原発も基地も問題構造は同じです。私個人は沖縄の基地問題を他人事ではないと感じてきました。

■突然当事者に

しかし多くの島民にとって辺野古は「どこか遠くの話」。沖縄で10万人規模の反対集会がひらかれても選挙で何度となく「民意」を示しても、ほとんどの人にとっては他人事なのです。本当はいつ五島がそんな立場になってもおかしくないのに。ちょっと考えれば、一度そんな国策を受け入れたら最後、どんなに嫌だといってもこの美しい海と島々に住む私たちの生活や権利は雲散霧消し、その声は本土の人の耳に届くことなく中央の一部の権力に踏まれる土台になってしまうことが想像できるでしょうに……。この長崎県の離島は、一見美しい海の色と裏腹に、「公共」事業という名のコンクリートに埋め尽くされ税金シロアリに蝕まれて国家の言いなりになっている現実を、私たちは直視しなければなりません。

そこに入ってきたのが辺野古の埋め立て土砂を「この五島から」運ぶというニュース。もはや

他人事ではなく、五島は辺野古新基地建設問題の当事者となったのです。

■渡りに舟の阿部さん来島

しかし、同じ離島でも沖縄と違って住民運動の下地・機運ともにゼロ。声を上げたくとも何から手をつけてよいか分かりませんでした。そこへ、阿部悦子さんから五島にも来たいと電話があり、渡りに船とばかりに7月22日、阿部さんを囲んでとにかく会合を持ちました。

■長崎から全国に発信を

会合では、以下の3点を確認し、地元紙にも取り上げられました。

- ①沖縄県が拒否している土石を五島から搬出するのは道義的に許せない。業者と関係機関意に働きかけ、これを阻止する
 - ②砕石による五島の自然破壊、沖縄にはいない生物群を五島の土とともに沖縄に運び沖縄の生態系を壊す、この双方を許さない
 - ③米軍と自衛隊の共同作戦の中核的基地として建設されようとしている辺野古基地を許さない
- 出遅れた上に遅々とした動きではありますが、「辺野古の海を五島の土で埋めさせない住民の会」(略称:辺野古の会)設立発起人会を中心に、署名を集めつつ、地元はこの問題を知らせ、当事者としての意識を持ってもらい、長崎からの搬出反対の声を全国に発信することを目標として頑張ります。

<p>米軍普天飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古沿岸部への移設問題で、国が沿岸部埋め立てに五島市椏島の土砂も一部使う計画があるとして、椏島からの土砂搬出に反対する住民らが22日、五島市内で初会合を開いた。関係者は反対署名活動や、県、市などに働き掛ける組織づくりを検討している。</p> <p>新上五島町の自営業、歌野敬さん(64)が呼び掛け14人が参加。各地からの土砂搬出に反対している全国連絡協議会の阿部悦子共同代</p>	<h3>五島・椏島の土砂使うな</h3> <p>辺野古埋め立て 反対住民が初会合</p>  <p>他県の採石場の写真を示しながら説明する阿部共同代表(左)＝五島市池田町、福江文化会館</p>
<p>表(65)愛媛県が「戦争のために郷土の土砂は出しはけない。環境破壊でもあり、沖縄だけの問題ではない」と訴えた。歌野さんは「椏島が予定地ということはまだ知られていない。計画に『なぜ』と思う人を増やしたい」と語った。政府は沖縄本島のほか、本島や熊本、香川各県などから土砂を搬入する計画。取材に対し、防衛省沖縄防衛局は「(買い取りの)契約前であり、現時点では搬出予定地ではない」として</p> <p>(後藤洋平)</p>	

2015.7.23 長崎新聞

小豆島の土砂で辺野古の海を汚すまい

島の環境と健康を考える会 事務局 富田恒子

■阿部さんから連絡が

環瀬戸内海会議代表の阿部悦子さんから、小豆島も辺野古埋め立て用土砂持ち出し予定地となっている。計画撤回の署名運動にいっしょに取り組まないかと、連絡が入りました。また、琉球新報の金良記者が取材に来島、熱心に取材され、名勝寒霞溪をもつ国立公園にそぐわない山の破壊に驚かれました。

■配慮ない桁違いの採石

「小豆島環境と健康を考える会」は、島一円の花々に、毎年行われていた松くい虫防除と称する有機リン殺虫剤の空中散布の中止を求める運動をきっかけに、1988年に発足。空中散布を中止できた1990年から毎年アースディ小豆島を主催し、自然観察、ドングリの種まき、植林、海岸清掃、環境展などを行い、小豆島の各地へ持ち込まれた産廃、豊島不法投棄産廃撤去の運動に微力を寄せてもきました。

折に触れて行ってきた環境実態観察会で、1993年に小豆島を巡った際、採石場の凄まじい環境破壊が目につきました。国立公園第一号指定地(1934年)なので、国立公園監視員に要望に行ったところ、指定当時すでに採石は行われており(秀吉の大阪城築城のため巨大な石が切り出され大名の刻印のある石が今も海岸近くに残る)、「採石の状況も含めて国立公園なのだ」と言われました。許可時は人力で行っていた砕石業は、後に重機に変わり、搬出時に交通事故などで死者が出るなどしたこと、下にトンネルつきの県道が作られ、運搬船まで直に運ばれる桁違いの大仕掛けになったことには、何の配慮もありませんでした。

■啞然とする話し

また、県から採石場の森林開発のやり方に関してストップがかかり、ようやく採石が停止。その後再開されたので県に理由を聞くと、「60度の傾斜で採石させ、跡地は植栽して元に戻すよう指導した。これで、あと何十年でも合法的に採石できる」と言われ、啞然としたものです。海岸線は国立公園に指定されていても、灘山の採石場や豊島のように破壊されれば、後追いで国立公園の指定が解除されてしまうのです(1999年)。

■動き出さねばと

今回、沖縄をあげて反対運動が巻き起こっている辺野古の米軍基地造成の埋め立てに小豆島の土砂が運び出される計画とのこと。かつて私も見た辺野古の海の美しさを守りたいと活動する人々、そして何よりも戦争で最大の犠牲を強いられた沖縄の人々を思うとき、私たちは非力でも動き出さねばと思います。

■埋め立て土砂なければ、基地は作れない

大阪の夢の島や関空へ埋め立て用の砕石が運ばれていた頃、新聞記事で「岩石をいったん海に沈めたのち船に上げられる」、その訳は「向こうの環境保全のため」とあり、操業中に見に行くと、本当に石を海に入れてから船で積み出していました。

辺野古に運ばれるのは、大きな石ではなく、岩ずり(土砂)。海で洗えるはずもなく、そのまま運べば辺野古の美しい海を汚すのは必定です。凄まじい自然破壊と気づきながらも、当会は構成メンバーの高齢化もあり、これまで見過ごしてきましたが、埋め立て用の土砂がなければ基地は作れないでしょうから、小豆島で止める意味があると思います。他県の友人たちも協力してくれています。

向井宏さんに来島していただき、9月20日に環瀬戸内海会議とともに勉強する機会を持ちます。学習しながら多くの人に知ってもらおう活動を続けたいと思います。



小豆島の灘山(なだやま)。長年の採石でかつての道路ごと山が削られている。



沖縄県議会と与党派は、6月12日、土砂や石材などの埋め立て用材の、県外からの搬入に伴う外来生物の侵入を規制する条例案を、県議会事務局に提出。記者会見ですらっと並んだ県議の姿に、頼もしさを感じます。なお、法案は7月13日に可決されました。



あの日
あの時

あ と が き

一海よ、たった一つの海よ、私たちはつながって在る一

辺野古の海を故郷の土砂で埋めたくない、西日本の各地がつながってから3ヶ月。奄美大島と瀬戸内がつながり、北九州の門司、熊本県の天草、長崎県の五島、そして香川県の小豆島へとその「想い」は広がっていきました。また沖縄県の土砂条例制定が各地を勇気付けました。

故郷を乱開発から守り、土砂を搬出することで辺野古に新基地を作らせてはならないと声をあげた人々のつながりは、つながることによって、ますます固く、この国の平和を求める人々の交流ともなっています。

私は、今年1月、初めて、奄美大島の採石現場、市(いち)集落に行きました。ここは西表に次ぐマングローブの森がすぐ近くにある住用湾の出口に当たります。ここで区長の田川一郎さんたちに迎えられ、お話を聞きました。「長年、騒音や粉塵公害に悩まされ、町に通じるたった1本の道が何度も土砂崩れでふさがれ、危険を訴えてもその声は誰にも届かない」と。先日その後の状況を聞くと、「今年4月の土砂崩れの後、鹿児島県はようやく事業者にも10月までの営業停止を命じたが、11月からはまた採取が始まるのか?かつては、どこまでも広がる珊瑚の海に魚介類が溢れていた。いま、この海は山からのヘドロが積もる『死の海』と呼ばれるが、我々の願いは、この海を元に戻すこと」。辺野古への加害は、一方でわれらの故郷の破壊につながる事が明らかです。

どのふるさとでも美しく、人々にとってかけがえがない。このふるさとを守る事が、次の世代に平和をつないでいくことだと思います。(阿部悦子)



5月29日、奄美・市集落に於いて(左から)北九州市・八記、市集落・田川、松山市・阿部。

《辺野古土砂搬出反対全国協ニュース》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 大津幸夫(自然と文化を守る奄美会議)
阿部悦子(環瀬戸内海会議)

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

八記久美子(門司の環境を考える会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

連絡先…愛媛県松山市松前町3-2-2 阿部悦子 携帯電話 090-3783-9332